

たけだじょうせき
1. 竹田城跡

■ 指定日

昭和18年9月8日(平成21年7月23日追加指定)

■ 種別

国指定史跡

■ 年代

嘉吉年間(1441～1443)～慶長5年(1600)

■ 所在地

朝来市和田山町竹田字古城山・城山ノ下

■ 所有者

竹田財産区・朝来市・個人



■ 内容

嘉吉の乱勃発後、竹田城は赤松氏に対する山名氏方の最前線基地として築城された。以後、太田垣氏7代にわたり城を守るが、天正5年(1577)、羽柴秀吉の但馬攻めにより、羽柴秀長が城代となった。天正8年(1580)、羽柴秀長は出石・有子山城に入り、その後、竹田城は秀長の属将・桑山重晴に預けられ、天正13年(1585)からは赤松広秀が城主となり、慶長5年(1600)まで城を守った。

築城当初の姿は、現在の本丸・天守台の存在する山頂部から三方に延びる尾根上に曲輪を連続的に配置し、堀切や堅堀で防御性を高めていたものと思われる。一方、織豊期以降は、最高所の天守台(標高353.7m)をほぼ中央に置く石垣城郭となり、本丸以下南方には、南二の丸、南千疊が、北方には、二の丸、三の丸、北千疊を築いている。さらに、天守台の北西部には、花屋敷曲輪があり、南北に向かい合った石塁を築き、防御性を高めている。これらの石垣遺構周辺には、多くの石取場や大堅堀また登り石垣なども確認され、倭城の築城形態に倣った作りとなっている。

また、東側の山麓部に推定されている居館跡では、発掘調査により虎口石垣などを確認した。